

新しいアンケートの試み —教員による自由作成項目の導入と1年目の結果—

井戸 慶治 Steve T. Fukuda
(徳島大学全学共通教育センター 点検評価部会)

1. はじめに

全学共通教育センターでは、授業評価アンケートにおいて、2009 年度前期より大学全体で共通の設問 6 項目を採用することになったが、この機会に大幅な変更をおこなった。その中で新しい試みとして、少数の大学ですでに実施されている教員による自由作成項目を導入した。共通項目の他に 5 個以内の項目を授業担当教員自身が自由に作成し、学生に問うというものである。本稿では、この点を中心に、新しいアンケートの概略と1年目の結果について報告する。

2. 新しいアンケートの概略

項目数については、従来は共通項目のみの 14 だったが、新しいアンケートでは、共通項目 8、自由作成項目 5 以内とした。自由作成項目は、授業担当教員が不要と考えれば作らなくてもよいとしたので、総項目数は 8~13 となり減少した。アンケートの結果はすぐ数値化できるため、自己点検などの手っ取り早い手段として多くの大学で頻繁に利用されているが、その結果学生・教員ともアンケートに対する倦怠感を感じている。傍証として、少なからぬ学生（過去の試験的調査では 1 割から 2 割）が全項目で同じ数字にマークしている。当センターでは中間アンケートを実施していることもあり、負担軽減のため、毎学期に全授業でアンケートをおこなうのではなく、科目群ごとに 3 つに分け、各授業について一年半に一回の実施としている（2009 年度前期は教養科目群）。

アンケートの項目は、以下のとおりである（紙面の制約により一部表現を短縮）。

（設問 2 以外は 5 を最高値とする 5 段階評価で）

【自分自身に対する評価】

- 1) あなたの受講態度(集中度・出席率・発表の回数と内容など)はどうだったか。[受講態度]
- 2) 予習復習・レポート作成・関連文献の読書・

外国語やスポーツの実践練習など、この授業に関連して費やした時間の平均は、1 週間あたりどのくらいだったか。[学習時間]

[5 : 2 時間以上, 4 : 1 時間半程度, 3 : 1 時間程度, 2 : 30 分程度, 1 : ほとんどなかった]

3) 受講にさいしてこの授業の目的・目標を理解していたか。[目的意識]

【教員に対する評価】

4) シラバスの目的・目標などは実際の授業でどの程度実現されたか。[シラバスと授業の整合性]

5) 教員の話し方や説明の仕方は適切だったか。[説明・発声の適切さ]

6) 授業への積極的関与や自主的学習・実践などを促す教員の創意工夫があったか。[創意工夫]

7) 総合的に判断して、あなたはこの授業に満足したか。[総合評価]

8) (中間アンケートを実施した授業についてのみ回答) 中間アンケート以降、授業方法は改善されたか。あるいは、中間アンケートの時点ですぐれた授業だった場合、その水準が維持されたか。

【教員による自由作成項目】

以下、担当教員が別紙や板書などで示す設問(5 個以内)があれば、5 段階評価で回答せよ。

9) () 【10】—13) も同様】

自由作成項目導入の趣旨について、センターでは以下のように考え、アンケートを実施する教員にも周知して理解と協力を依頼した。1) 共通項目のみの統一的アンケートの弱点を補い、個々の教員が考える「よい授業」の基準を授業評価に取り入れることで、授業の多様性を保証する。2) 各教員が授業の内容・方法について尋ねたい事柄をピンポイントで調査する、例えば重要・難解と思われる部分について、よく理解できたかという項目を設定することにより、授業の質を改善する直接的な手段となる。3) 授業評価における各教

員の自主性を高め、授業ごとに異なる多様な項目により、アンケートへの学生の無関心を抑制する。

なお、自由作成項目の参考のために、他大学のアンケート項目などをもとに作った以下のような例（一部短縮）を、授業担当教員への配布資料に添付し、この例からそのまま使用する場合には、a, b, c などの符号で学生に示す（学生用の用紙でも前もってこれらの例を提示）ことも可とした。

- a. 新しい知識や技能が獲得できたか。
 - b. 対象の多面的な見方ができるようになったか。
 - c. 知的な意味で視野が広がったか。
 - d. 授業の内容に知的な面白さがあったか。
 - e. 授業テーマや関連分野への興味が湧いたか。
 - f. 授業への準備は十分になされていたか。
 - g. 教科書や配布資料、提示の参考文献は適切か。
 - h. 個々の質問や発言への教員の対応は適切か。
 - i. 単なる知識の羅列でなく、系統的に考えられる枠組みが与えられていたか。
 - j. 受講生の理解度に対する配慮が感じられたか。
 - k. 授業で得た知識や考え方は役に立ちそうか。
- （1-p は省略）

また、各教員によって自由に作成された項目については、今後の自由項目作成のさいの参考とするため、折を見て公表することとした。このカンファレンスと抄録もその機会のひとつである。

3. 2009 年度前期の結果

ここでも自由作成項目を中心に報告する。この項目の使用率は 36 パーセントであり、すでに実施している大学からの情報による予想をはるかに超える高い数値であった。このうち 13 の授業で、担当教員による**独自の項目**が作成されたが、分類すると以下のようなになる（一部省略・短縮）。

【授業全体に関するもの】

ノートの作成がしやすい講義だったか。

授業の難易度はどうだったか。

「ライブ感ある授業」だったと思うか。

【授業の具体的方法に関するもの】

小テスト・レポートの内容は適切か。

授業に関連する「雑談」は面白いと思ったか。

中間と期末試験の両者を実施することはよいか。
ビデオやその他資料が効果的に用いられたか。
社会人が授業に参加することはよいと思ったか。
課題レポートは内容の整理や理解に有意義か。
パワーポイントとノートによる授業は受けやすいと思ったか。

講義の一環として実験実習の実施はよかったか。
e-ラーニングを併用するのは学習に効果的か。
聴衆応答システム Turning Point 利用により授業に積極的に参加できたか。

ほぼ毎回宿題を課すのはよいと思うか。

【授業の重点的内容に関するもの】

*** という用語の意味はよく理解できたか。

*** に関する知識は生きる上で必要と思うか。

*** の概要が把握できたか。

自己について考える機会になったか。

*** の基礎について幅広く学べたと思うか。

【授業の効果に関するもの】

従来の*** のイメージが変わる授業だったか。

多面的、主体的に考えるようになったか。

新聞をよく読むようになったか。

学問に対する新しい視点が拓かれたか。

全体として多種多様で時には意外な項目もあって、教員や授業の個性が現れていて興味深いが、今後の作成の参考にもなると思われる。

例示した項目については、使用数の多少はあるが、23 項目のうち 22 が採用された。よく使用されたものは以下の通りである。

13 回 : d. 12 回 : b, c. 10 回 : e. 9 回 : k.

全体的に、知的な関心、多面的な見方や視野の広さの獲得に関する項目がよく使用され、有用性に関する項目がこれに続く。今回の調査対象授業が教養科目群だったことも影響しているだろう。

このアンケートの実施方法について、会議において、また個人的に、教員や事務官の方々から多くの有益な提案があり、さらにアンケート実施教員の理解と協力が得られた結果、予想以上の成果となった。自由作成項目の使用率 36 パーセントという数字は、本学教員の熱意を物語るものであろう。後期末には社会性形成科目群と基礎科目群でアンケートが実施されるが、カンファレンスに間に合えばその結果も報告したい。